

## 株主のみなさまへ

第20期

平成19年12月1日~平成20年11月30日

## O THE SHAREHOLDER AND INVESTORS

## 株主・投資家の皆様へ

株式会社関門海 代表取締役会 株式会社トドクック 代表取締役を 株式会社関門海 専務取締役

代表取締役会長兼社長グループCEO 谷間 真 代表取締役社長COO 田中 正

専務取締役 玄品食門研究所長 山元 正

#### Q1 まず、今期 (平成20年11月期) を振り返って、 総括していただけますか?

#### 谷間

今期は、当社グループにとって大きな「変化の年」でした。これは最近毎年同じことを言っているようですが、それだけ時代の流れが速いのだと思います。まず、12月には株式会社ヤタガラスホールディングスによる当社株式の公開買付により、資本構成が大きく変化しました。また、7月に代表取締役社長であった山形が辞任し、経営陣にも変化がありました。そして、6月から9月にかけて、株式会社富士水産、株式会社だいもん、株式会社アクト・デリカ、有限会社しまヤ酒店の4社を子会社化し、グループ企業も大幅に変化、そして、年初からの食材価格の高騰、9月以降の急激な景気悪化と社会経済環境も大きく変化が起こっています。

このような環境の中で、当社グループは、売上高はM&Aを積極的に行ったことにより11,313百万円(前年同期比24.6%増)と大幅に伸びて当然ですが、利益についても経常利益374百万円(前年同期比17.5%増)と増収増益を達成しており、自力のある企業体に成長してきたものと自負しております。

#### Q2 事業の種類別セグメントの業績について説明してください。

#### 谷間

まず、研究開発型外食事業は、売上高7,393百万円(前年同期比9.8%増)、営業利益1,029百万円(前年同期比70.4%増)の増収増益となりました。主力業態である「玄品ふぐ」においては、とらふぐ相場が高騰する中で、玄品グループとして取り組んできた技術開発・在庫投資の成果が出たことによるものと考えております。

一方、総菜宅配事業は、売上高は3,742百万円(前年同期比90.4%増)でしたが、営業損失171百万円と損失を計上する結果となりました。その他の事業は、売上高178百万円(前年同期比53.0%減)、営業利益25百万円(前年同期比70.1%減)となっています。

#### Q3 今期にM&Aした会社について、その狙いとその後の状況を ご説明いただけますか?

#### 山元

まず、6月に子会社化した株式会社富士水産については、現在約20万匹のとらふぐを養殖しております。現在、主力業態である「玄品ふぐ」で提供されているとらふぐは、中国において調達を行っているのですが、今後の国際情勢の変化などに対応できるよう国内調達においても食材の競争力を保持していくためのグループとしての取組みです。平成21年1月から自社養殖による活けとらふぐの出荷を開始しており、数年後には主力生産拠点に成長できるよう努力しているところです。

#### 谷間

株式会社だいもんは、玄品グループとして再編・淘汰が予想される外食業界において、M&Aを推進していくという方針のもと初めて実行した案件でした。株式会社だいもんを子会社化したのは、漁港との直接取引を推進するのに非常に有意義であることが一つのポイントでしたが、この点については、沼津漁港を中心とした漁港との取引は活性化され、目的は達成できたものと考えています。ただ、店舗業績が景気後退に伴い、9月以降低下していることが問題で、店舗運営力の向上により業績を維持向上させていかなければなりません。

#### 田中

株式会社アクト・デリカは、株式会社カネジとの合併・事業統合を目的としたM&Aでした。もともとアクト・デリカも赤字事業でしたので、今期においては損失を計上する結果となってしまいましたが、来期以降の黒字化の目処は立っています。現在は、平成20年12月に合併を行い、株式会社トドクックとして再スタートを切ってから、1月のメニュー統合、2月の営業所統廃合、物流の一本化など急速に事業統合を進めております。事業統合は、上半期に終了する計画で推進しているので、下半期には収益性の高い事業への再編が完了できると思います。





山元 正

24 食材の調達力の強化に注力しているようですが、今期、 どのようなことを行ったのですか?

#### 山元

総菜宅配「トドクック」、回転寿司「すし兵衛」などに提供される水産物の一部の調達を漁港からの直接仕入に切り替えていること、農業については、委託契約栽培に着手し、さらに農業生産法人の設立準備を行っていること、対馬の富士水産においての養殖をはじめとした養殖事業を推進していることなど、生産もしくは生産に直結した食材の調達を推進していることがあげられます。

それ以外にも、賞味期限間近や規格外の農産物、メーカーの在庫品など のわけあり商品の調達など特徴のある食材調達により、競争力向上を 図っています。

#### Q5 景気が急激に悪化していますが、 来期はどのような見通しでしょうか?

#### 谷間

来期については、売上高12,500百万円 (前年同期比10.5%増)、営業利益450百万円 (前年同期比2.6%増)、経常利益375百万円 (前年同期比0.2%増)を見込んでおります。

景気後退により、店舗業績が低下すること、今期にはメガフランチャイジーへの店舗譲渡による収益が含まれていることなどから減益要因が多い中で、総菜宅配事業の黒字化による増益に加え、役員報酬のカットをはじめとしたコストダウンと従業員一同の努力によりこの情勢を乗り切っていきたいと思っております。

株主の皆様には、今後とも一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申 し上げます。

#### 昭和55年

大阪府藤井寺市において、創業者山口聖二が当時では考えられない「てっちり1,980円」をキャッチフレーズとしたとらふぐ料理専門店「ふぐ半」(現「玄品ふぐ藤井寺の関」)を開店

女品グループの歴史

#### 平成元年

株式会社さかな亭(現 株式会社関門海)を設立

ISTORY

#### 平成11年

関東地区1号店「下関ふぐ新橋店」(現「玄品ふぐ新橋の関」)を開店 食材に関連する技術開発を目的とした研究開発活動を開始

#### 平成13年

株式会社関門海の商号を変更

大阪府松原市に、研究開発室、セントラルキッチン、物流センターを兼備した本部事務所を開設

#### 平成14年

とらふぐ料理店の屋号を「玄品ふぐ」に統一 三重県に関門海三重陸上養殖場を建設

#### 平成15年

長期低温熟成技術が完成し、とらふぐの保存・輸送への導入開始

#### 平成16年

玄品ふぐフランチャイズ店舗1号店「玄品ふぐ銀座一丁目の関 | を開店

#### 平成17年

東京証券取引所マザーズ市場へ株式上場 創業者山口聖二が交通事故により急逝

#### 平成18年

店舗数100店舗を達成

#### 平成19年

財務大臣が筆頭株主となる総英字配「おかずのカネジ」を

総菜宅配「おかずのカネジ」を新設子会社株式会社カネジが事業譲受 大阪市西区にグループ本部事務所開設

サッポロビール株式会社との資本業務提携

株式会社ヤタガラスホールディングスによる株式公開買付を実施

#### 平成20年

とらふぐ養殖と水産物加工の株式会社富士水産を子会社化 回転寿司「むし兵衛」の株式会社だいもんを子会社化 総菜宅配「ラビットクック」の株式会社アクト・デリカを子会社化 酒販事業と飲食事業を営む有限会社しまヤ酒店を子会社化 株式会社カネジと株式会社アクト・デリカを合併し、株式会社トドクックに社名変更

TO THE SHAREHOLDER AND INVESTORS

HISTORY 2

## INANCIAL HIGHLIGHT

## 財務ハイライト

社グループの当連結会計年度における売上高は、前期から積極的に推進したM&Aにより11,313百万円(前年同期比24.6%増)と大幅な増収となり、利益につきましても、営業利益438百万円(前年比11.8%増)、経常利益374百万円(前年比17.5%増)、当期純利益155百万円と増収増益となりました。

グメント別では、研究開発型外食事業は、「玄品ふぐ」は、期末日 現在、直営店舗69店舗、フランチャイズ店舗48店舗、計117店舗 (前期末比6店舗増)、「すし兵衛」「玄品以蟹茂」のその他の業態26店 舗と合わせて143店舗(前年同期比22店舗増)を展開しております。結 果、売上高は7,393百万円(前年同期比9.8%増)、営業利益は特殊要 因もあり1,029百万円(前年同期比70.4%増)となりました。

総菜宅配事業は、売上高の逓減が見られる中で、積極的な広告宣伝、人材採用等の投資により顧客の拡大を目指しましたが、投資を回収するには至らず業績が悪化したため、抜本的な構造改革を図るため、競合関係にあった総菜宅配「ラビットクック」を展開する株式会社アクト・デリカをM&Aし、事業統合による経営効率の向上に取り掛かりました。結果、売上高は3,742百万円(前年同期比90.4%増)、営業損失は171百万円となりましたが、来期以降、黒字化できる見込みとなっております。

#### 経営利益·当期純利益



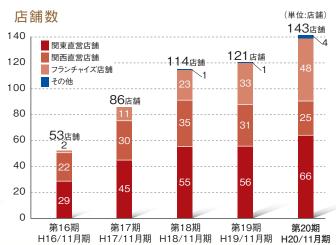
の他の事業は、売上高178百万円(前年同期比53.0%減)、営業 利益25百万円(前年同期比70.1%減)となっております。

成21年11月期は、売上高12,500百万円(前年同期比10.5%増)、営業利益450百万円(前年同期比2.6%増)、経常利益375百万円(前年同期比0.2%増)、当期純利益120百万円(前年同期比23.0%減)を見込んでおります。

## 売上高

(単位:百万円)





## OPICS

#### トピックス

#### 平成20年12月

株式会社カネジと株式会社アクト・デリカが合併し、 「株式会社トドクック」に商号変更



#### 平成20年10月

- 名古屋市中区に「玄品ふぐ 錦の関・錦中央の関」を オープン(名古屋初出店)
- 東京本部を移転



#### 平成20年9月

- 酒販事業と飲食事業を営む有限会社しまヤ酒店を子会社化
- 札幌市中央区に「玄品ふぐ ススキノの関」をオープン (北海道初出店)



玄品ふぐフランチャイズ加盟店として前社長山形圭史により設立された 株式会社海山御坊に直営10店舗を譲渡



北海道共同事業

ススキノの関

### 平成20年7月

- イートマーケット 「ちゃぶマイル」 オープン
- 回転寿司「すし兵衛」の株式会社だいもんを子会社化
- ・山形圭史が代表取締役社長を辞任し、谷間真が代表取締役社長を兼務
- 総菜宅配「ラビットクック」の株式会社アクト・デリカを子会社化

### 平成20年6月

とらふぐ養殖と水産物加工の株式会社富士水産を 子会社化



ちゃぶマイル

#### 平成20年5月

• グローバル・ノエ株式会社と北海道地方での 共同事業開発に関する業務提携

### 平成20年1月

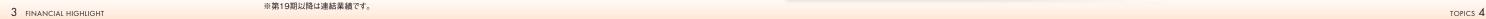
- 「玄品以蟹茂 浜松町店」をオープン
- とらふぐ相場が急騰。「玄品ふぐ」は技術開発、 在庫投資により堅調

### 平成19年12月

- 筆頭株主が、財務大臣から株式会社ヤタガラス ホールディングスに異動
- 「玄品ふぐ」のTVコマーシャル開始



テレビCM



## INANCIAL STATEMENTS

## 連結財務諸表

油丝貸供計昭主(亜約)

理結員借对照表(要約)		(単位:千円)
【資産の部】		
	当期 (H20.11.30現在)	前期 (H19.11.30現在)
流動資産	4,431,086	3,818,222
現金及び預金	1,145,688	947,044
売掛金	552,458	484,510
たな卸資産※①	2,284,199	2,089,183
操延税金資産	83,412	61,310
その他	383,394	238,082
貸倒引当金	△18,066	△1,908
固定資産	4,706,493	3,845,478
有形固定資産 ※②	2,806,859	2,713,905
建物及び構築物	1,951,871	1,856,755
機械装備及び運搬具	83,851	124,703
土地	462,736	349,032
建設仮勘定	1,504	18,580
その他	306,896	364,833
無形固定資産	675,373	101,280
のれん <b>※</b> ③	574,942	3,931
その他	100,430	97,348
投資その他の資産	1,224,259	1,030,293
差入保証金	1,009,682	827,005
その他	216,849	203,288
貸倒引当金	△2,271	-
資産合計	9,137,579	7,663,701

		(単位:千円)
【負債の部】		
	当期 (H20.11.30現在)	前期 (H19.11.30現在)
流動負債	4,415,528	3,721,916
支払手形及び買掛金	491,752	499,989
短期借入金	1,450,384	1,100,000
1年以内返済予定の長期借入金	1,241,143	1,218,129
1年以内償還予定の社債	40,000	32,000
未払金	679,597	709,058
その他	512,650	162,739
固定負債	3,315,477	2,486,255
社債	-	40,000
長期借入金	3,035,446	2,382,726
その他	280,031	63,529
負債合計	7,731,005	6,208,172
【純資産の部】		
株主資本	1,397,526	1,455,529
資本金	323,920	306,040
資本剰余金	432,916	415,036
利益剰余金	827,689	734,453
自己株式	△187,000	-
新株予約権	9,047	-
純資産合計	1,406,574	1,455,529
負債·純資産合計	9,137,579	7,663,701

### |※① たな卸資産

2,284百万円(前期末比195百万円増加)

たな卸資産の大半は、「玄品ふぐ」で提供 される超低温で保管されているとらふぐ です。このとらふぐの在庫投資により、 「玄品ふぐ」は、今期とらふぐ相場が乱 高下する中でも安定した収益性が確保さ れています。また、6月に子会社化した株 式会社富士水産において、本格的にとら ふぐ養殖に参入しており、期末日現在、 成育中のとらふぐは約20万匹、金額にし て143百万円と今期の主な増加要因と なっています。

#### ※② 有形固定資産

2,806百万円(前期比92百万円增加)

主に株式会社だいもんの子会社化によっ て、回転寿司「すし兵衛」の店舗設備 205百万円、土地113百万円が増加した ことが主な要因です。それ以外について は、財務バランスを勘案しながら新規出 店を減速しているので、有形固定資産は 今後減価償却等により減少していく見込 みです。

#### |※③ のれん

574百万円(前期比571百万円增加)

今期に子会社化した株式会社富士水産、 株式会社だいもん、株式会社アクト・デ リカ、有限会社しまヤ酒店ののれんです。 今期にはのれん償却費20百万円が計上 されています。

## |※4 有利子負債

5,766百万円(前期比994百万円増加)

今期、積極的に推進したM&A、子会社 化した株式会社だいもんの有利子負債、 在庫投資等により有利子負債が増加して おります。来期は、投資活動を減速し、 有利子負債の圧縮に努めます。

#### 連結損益計算書(要約)

(単位:千円)

	当期 (H19.12.1~H20.11.30)	前期 (H18.12.1~H19.11.30)
· 市上高	11,313,934	9,078,665
<b>売上原価</b>	4,219,802	3,147,124
· 市上総利益	7,094,132	5,931,540
販売費及び一般管理費	6,655,472	5,539,182
営業利益	438,660	392,358
営業外収益	35,486	16,327
営業外費用	99,862	90,256
圣常利益	374,284	318,429
寺別利益	134,737	156
寺別損失	166,584	384,730
党金等調整前当期純利益又は当期純損失	342,437	△66,144
去人税等	186,500	△709
当期純利益又は当期純損失	155,936	△65,435

#### 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	当期 (H19.12.1~H20.11.30)	前期 (H18.12.1~H19.11.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー ※①	857,929	353,186
投資活動によるキャッシュ・フロー ※②	△844,505	△1,352,302
財務活動によるキャッシュ・フロー ※③	185,113	1,358,017
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	21
現金及び現金同等物の増減額	198,537	358,923
現金及び現金同等物の期首残高	894,044	535,120
現金及び現金同等物の期末残高	1,092,582	894,044

#### 連結株主資本等変動計算書(要約)(H19.12.1~H20.11.30)

(単位:千円)

							( ) ( ) 37
			株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株式資本合計	新株予約権	純資産合計
——————————— 前期末残高	306,040	415,036	734,453	-	1,455,529	-	1,455,529
連結会計年度中の変動額							
新株の発行(千円)	17,880	17,880			35,760		35,760
剰余金の配当(千円)			△62,700		△62,700		△62,700
当期純利益(千円)			155,936		155,936		155,936
自己株式の取得(千円)				△187,000	△187,000		△187,000
株主資本以外の項目の連結会計年度中の 変動額(純額)(千円)					-	9,047	9,047
連結会計年度中の変動額合計(千円)	17,880	17,880	93,236	△187,000	△58,003	9,047	△48,955
当連結会計年度末残高(千円)	323,920	432,916	827,689	△187,000	1,397,526	9,047	1,406,574

#### |※1) 営業活動によるキャッシュ・フロー 857百万円 (前期比504百万円増加)

研究開発型外食事業が順調に推移した ことに加え、サッポロビールとの業務提 携に関連する長期前受収益の増加187 百万円などの増加要因により、営業活動 により得られたキャッシュ・フローは増加 いたしました。

#### |※② 投資活動によるキャッシュ・フロー △844百万円 (前期は△1,352百万円)

M&Aによる関係会社株式の取得による 支出420百万円が発生しましたが、新規 出店等による有形固定資産の取得による 支出が950百万円減少したために前期よ りも投資活動により使用したキャッシュ・ フローは減少しております。

#### ※③ 財務活動によるキャッシュ・フロー 185百万円 (前期は1,358百万円)

当期は、営業活動により得られたキャッ シュ・フローが増加したことと、投資活動 により使用したキャッシュ・フローが減少 したことにより、資金調達額も減少して おります。

## INANCIAL STATEMENTS

## 個別財務諸表

#### 個別貸借対照表(要約)

間が見用が流	( <del>3C</del> ( <del>3C</del> N ))	
【資産の部】		
	当期	前期
	(H20.11.30現在)	(H19.11.30現在)
流動資産	3,264,294	3,567,382
現金及び預金	487,963	622,086
売掛金	261,554	307,377
たな卸資産	2,097,701	2,050,257
関係会社短期貸	付金 190,996	300,000
その他	226,078	287,661
固定資産	4,086,279	3,677,813
有形固定資産	2,364,659	2,563,799
建物	1,671,364	1,766,246
器具備品	272,638	339,042
土地	349,032	349,032
その他	71,624	109,477
無形固定資産	58,494	75,784
投資その他の資産	1,663,126	1,038,229
差入保証金	798,013	788,620
その他	865,112	249,609
資産合計	7,350,574	7,245,196

		(単位:千円)
【負債の部】		
	当期	前期
(H20	.11.30現在)	(H19.11.30現在)
流動負債	3,129,427	3,340,512
買掛金	123,425	327,653
短期借入金	1,150,000	1,100,000
1年以内返済予定の長期借入金	1,044,897	1,218,129
1年以内償還予定の社債	40,000	32,000
未払金	380,936	551,865
その他	390,168	110,864
固定負債	2,716,622	2,476,976
社債	-	40,000
長期借入金	2,469,641	2,382,726
長期前受収益	182,731	-
その他	64,250	54,250
負債合計	5,846,049	5,817,488
·		

【純資産の部】		
株主資本	1,495,477	1,427,708
資本金	323,920	306,040
資本剰余金	432,916	415,036
利益剰余金	925,641	706,631
自己株式	△187,000	-
新株予約権	9,047	-
純資産合計	1,504,525	1,427,708
負債·純資産合計	7,350,574	7,245,196

#### 個別指送計管建(亜約)

個別損益計算書(要約)		(単位:千円)
	当期 (H19.12.1~H20.11.30)	前期 (H18.12.1~H19.11.30)
	7,056,791	7,250,199
売上原価	2,035,742	2,183,640
売上総利益	5,021,049	5,066,558
販売費及び一般管理費	4,464,843	4,759,760
営業利益	556,205	306,798
営業外収益	138,091	45,635
営業外費用	110,670	95,781
経常利益	583,626	256,652
特別利益	85,979	-
特別損失	163,595	370,932
税引前当期純利益又は税引前当期純	損失 506,010	△114,280
法人税等	224,300	△21,023
当期純利益又は当期純損失	281,709	△93,257

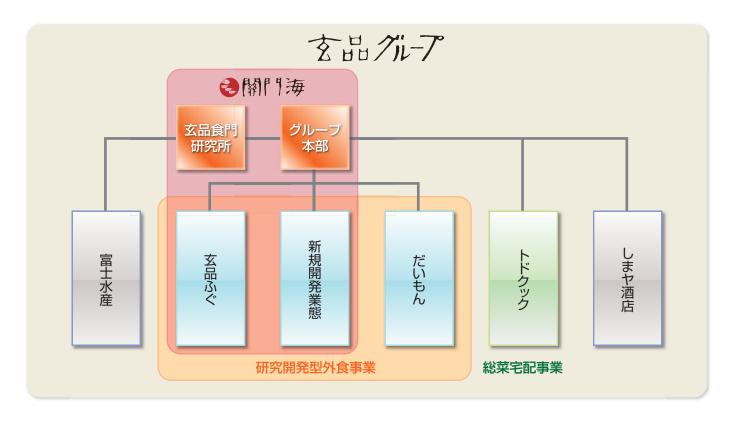
## 個別株主資本等変動計算書(要約)(H19.12.1~H20.11.30)

Harris - Section 13 H (Section (Contract)							(— III.)
	株主資本						
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株式資本合計	新株予約権	純資産合計
前期末残高	306,040	415,036	706,631	-	1,427,708	-	1,427,708
事業年度中の変動額							
新株の発行(千円)	17,880	17,880			35,760		35,760
剰余金の配当(千円)			△62,700		△62,700		△62,700
特別償却準備金の取崩し(千円)			-		-		-
当期純利益(千円)			281,709		281,709		281,709
自己株式の取得(千円)				△187,000	△187,000		△187,000
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額 (純額)(千円)						9,047	9,047
事業年度中の変動額合計(千円)	17,880	17,880	219,009	△187,000	67,769	9,047	76,817
当事業年度末残高(千円)	323,920	432,916	925,641	△187,000	1,495,477	9,047	1,504,525



## グループ

関門海は「玄品グループ」として、とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」の展開だけに留まらず、 「食」を通じて社会に貢献する企業となるため、幅広い新規事業開発・M&Aを推進しております。



- ■株式会社トドクック
- ■株式会社だいもん
- ■株式会社富士水産
- ・一般家庭向け総菜宅配事業
- ・回転寿司「すし兵衛」の経営
- ・とらふぐ養殖
- ·水産物加工

#### ■有限会社しまヤ酒店

- ・泡盛を中心とした酒販店
- ・沖縄料理店の経営

GROUP 8 7 FINANCIAL STATEMENTS

(単位:千円)

## ENPIN FUGU

## とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」

とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」は、とらふぐ相場が乱高下する中、技術開発と在庫投資により、高い収益性を維持しております。また、タレントの中澤裕子さんを起用したTVコマーシャルを関西・関東圏での放映などの広告宣伝投資により、「玄品ふぐ」の認知度は次第に向上しているものと考えております。

新規出店につきましては、出店エリアの拡大として札幌市中央区の「ススキノの関」、名古屋市中区の「錦の関」「錦中央の関」の出店、地域密着型店舗として、「船橋の関」「八王子の関」「青葉台の関」をフランチャイズ店舗として出店し、順調に推移しております。

9月以降、景気が急速に悪化したことにより、下半期の店舗売上高は低下いたしましたが、より一層の店舗運営力の向上とコストダウンにより、 来期も前年並みの利益を確保できるものと考えています。









# ERGERS AND ACQUISITIONS M&A

## カネジとラビットクックは、レシピと食材「トドクック」へ

「おかずのカネジ」と「ラビットクック」は事業統合し、「レシピと食材 トドクック」として生まれ変わりました。この統合により、関西地区の総菜 宅配業界においてトップシェアを持つことになります。

トドクックは、①CIの見直しにより顧客層の拡大、②個性ある単品商品の取扱拡大による売上向上、③重複する営業コストや生産・物流効率の向上による徹底したコストダウンを方針の柱として、事業統合を全力で推進しております。

既に1月からはカタログが一本化され、お客様にも好評をいただいており、 来期以降の玄品グループの事業のもう一つの柱となってまいります。





#### トドクックでの取扱商品例

#### ■わけあり商品

トドクックでは、食料自給率が約40%しかない日本において、今後訪れることが危惧されている食糧問題を深刻な問題と捉えています。にもかかわらず、日本では多くの商品が賞味期限・規格外などの問題で毎日廃棄されています。その無駄をなくそうという想いを実現させたのが「わけあり」コーナーです。

#### ■お宝水産

トドクックでは、漁業関係者と直接手を組み、日本の漁業再生支援の取組を行っています。漁港と直接取引を行い、新鮮な水産物を直送でお客様にお届けしたり、知る人ぞ知る地元でしか流通しない美味しい魚を提案したりするのが「お宝水産」コーナーです。

9 GENPIN FUGU

## ERGERS AND ACQUISITIONS

## M & A

## 回転寿司「すし兵衛」

玄品グループでは、再編・淘汰が続く外食業界において、技術開発力・食材調達力・店舗開発力等を活かし、サッポロビールとの資本業務提携を実施するなど外食業界での業務提携やM&Aを推進することで企業価値の向上を実現することを目指しております。

回転寿司「すし兵衛」は、当社グループが実施したはじめての外食業界でのM&Aでしたが、当社グループの食材調達力を活かして、「すし兵衛」で提供する水産物の一部を沼津漁港との直接取引に切り替え、商品力の向上とともに、沼津漁港とのより親密な関係の構築を実現しております。









## とらふぐ養殖と水産物加工の株式会社富士水産

富士水産は、玄品グループの主力業態である「玄品ふぐ」で使用するとらふぐの重要な生産拠点に育成していくことを目指して、自社養殖を行っています。玄品ふぐで年間使用するとらふぐ約60万匹に対し、約20万匹のとらふぐを現在養殖しており、平成21年1月からは店舗で提供する活けとらふぐとして出荷を開始しています。

富士水産では、とらふぐ養殖の技術・ノウハウをさらに蓄積し、美味しくて安全なとらふぐが安価に提供できるよう努力してまいります。

また、富士水産のある上対馬は天然の水産物も豊かで、漁港との直接取引による水産物の仕入れや富士水産で生産される水産加工品は、新規業態店舗・トドクックでも大いに活用されています。









11 MERGERS AND ACQUISITIONS 12

## CITUATION OF THE STOCKS 株式の状況

## C HAREHOLDER BENEFITS 株主優待制度

#### 平成20年11月30日現在

株式の状況	
発行可能株式総数	200,000株
発行済株式の総数	62,700株

5,112名

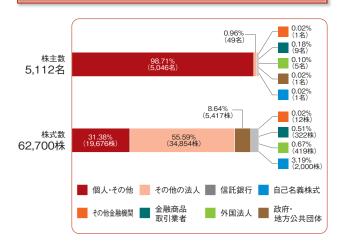
#### 大株主

期末株主総数

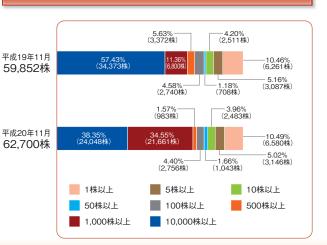
株主名	当社への出資状況		
	所有株式数(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合	
株式会社ヤタガラスホールディングス	24,048	38.35%	
有限会社サンミート	5,500	8.77%	
財務大臣	5,417	8.64%	
サッポロビール株式会社	5,102	8.14%	
岡本洋一	1,921	3.06%	
吉崎晃敏	1,721	2.74%	
谷間 真	983	1.57%	
関門海福株会	459	0.73%	
淺野省三	406	0.65%	
八藤 眞	400	0.64%	

※当社は自己株式2,000株(所有割合3.19%)を保有しておりますが、 大株主の状況には含めておりません。

## 所有者別株式分布状況



## 所有株式数別分布状況



#### 株主優待制度

#### 株主優待制度概要

・1株以上3株未満 優待券×1枚(3.900円相当) ·3株以上5株未満 優待券×2枚(7.800円相当) ・5株以上 優待券×3枚(11,700円相当)

#### 対象となる株主様

毎年5月31日、11月30日現在の株主名簿に記載された株主様。

#### 優待内容

・とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」 ①秘玄匠味セット1人前ご優待

・かに料理専門店「玄品以蟹茂」 ②ズワイ蟹鍋と炭火焼2人前ご優待

③3.900円相当の割引

・スペインバル「バルデゲー

④3.900円相当の割引

・ダイニングカフェ

「ARIA.C(アリアッチ) | ⑤3.900円相当の割引

·とらふぐ料理「ふぐ玄銀(くろかね)」 ⑥3.900円相当の割引

・「レシピと食材 トドクック」

⑦宅配トドクック5食セットと引き換え

·富士水産

⑧対馬の高級干物と引き換え

・お取り寄せ玄品ふぐ

93.900円相当の割引

・玄品ふぐひれ酒セット

⑩玄品ふぐオリジナルひれ酒セットと引き換え

### 「株主優待券」のご送付時期

- ・5月31日現在の株主名簿に記載された株主様に対しましては、 8月中旬頃の発送予定となります。
- ・11月30日現在の株主名簿に記載された株主様に対しましては、 2月下旬頃の発送予定となります。

#### 配当実施のお知らせ

当社グループは、新規出店、技術開発、M&A等に関わる投資により成 長を継続させ、企業価値を高めてまいる所存ですが、同時に当社株式を 長期保有していただいております株主の皆様への利益還元として、業績 に応じて、積極的に配当を実施していくことを基本方針といたします。

#### 配当の内容

当連結会計年度におきましては、平成21年1月15日公表のとおり、1株当 たり1.000円を配当実施いたします。つきましては、1株当たり中間配当 実績1,000円、期末配当1,000円、年間配当2,000円となります。平成 21年11月期の年間配当につきましても、1株当たり2.000円(中間配当 1.000円、期末配当1.000円)を予定しております。

なお、配当金額につきましては、現段階での予想となっており、変更する 可能性もございます。

	中間配当金(予定)	期末配当(予定)	年間配当(予定)
配当金額	1,000円	1,000円	2,000円



13 SITUATION OF THE STOCKS SHAREHOLDER BENEFITS 14

# PROFILE

## 株主メモ

決 算 期 毎年11月30日

基 準 日 毎年11月30日

中間配当基準日 毎年5月31日

株式の売買単位 1株

公告掲載方法 電子公告による

(http://www.kanmonkai.co.jp)

但し電子公告を行えない場合は、日本経済新聞に掲載する。

株 主 名 簿 管 理 人 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪市北区堂島浜1丁目1番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社

大阪証券代行部 TEL:0120-094-777

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店

## 会社概要

■株式会社 関門海 KANMONKAI Co.,Ltd.

創業昭和55年9月

創業者山口聖二が大阪府藤井寺市にてとらふぐ料理「ふぐ半」

(現「玄品ふぐ藤井寺の関」)を開店

設 立 平成元年5月 株式会社さかな亭(現:株式会社関門海)を設立

所 在 地 「本社所在地」

〒550-0014 大阪市西区北堀江2丁目3番3号

TEL:06-6578-0029(代表) FAX:06-6578-0030

お問い合わせ

e-mail: info@kanmonkai.co.jp

URL: http://www.kanmonkai.co.jp

[玄品食門研究所]

〒580-0041 大阪府松原市三宅東1丁目8番7号

[東京本部]

〒108-0071 東京都港区白金台5丁目4番7号 BARBIZON25 4F

資 本 金 3億2,392万円(平成20年11月30日現在)

彸 員 代表取締役会長兼社長グループCEO 谷 間 真 正 取 締 役 山元 田中 取 締 īF 大村 美智也 取 締 本 多 正嗣 締 役 取 岩本 昌志 取 締 真 理 土坂祐平 **补外取締役** 川合 アユム 常勤監查役 松本 省三 社 外 監 査 役 淺野 玉置 和則 社 外 監 査 役

(直近日現在)

従業員数 従業員数 197名(平成20年11月30日現在)

事業内容 ・「美味で健康的な本物のおいしさ」を追求する食材関連技術の開発

・とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」の直営及びフランチャイズによる 店舗展開

・食材関連技術を活用した新規開発事業による店舗展開